ウイルス第二部　非常勤職員（研究員）募集

【募集部署】　国立健康危機管理研究機構
国立感染症研究所　ウイルス第二部第三室

【勤 務 地】　国立健康危機管理研究機構　戸山本部キャンパス（東）
東京都新宿区戸山１－２３－１　国立感染症研究所
＜変更の範囲＞国立健康危機管理研究機構の事業場

【募集職種】　研究員

【採用人数】　１名程度

【雇用期間】　令和８年１０月１日～令和９年３月３１日（試用期間：採用日から３ヶ月間）
※契約の更新：有　（契約期間満了時の業務量・勤務成績、態度・能力・機構の経営状況・従事している業務の進捗状況・研究費の状況により判断）
※更新の上限：有　（通算契約期間の上限：１年）

【勤務時間】　１０時００分から１７時００分（休憩時間１２時～１３時）の範囲内
１日６時間程度、週 20～24 時間、週４日以内、で応相談
※定例休日：土日、祝日（年末年始（１２月２９日～１月３日）を含む）、勤務時間の相談の中で出勤日とならなかった曜日
※時間外労働：有（月平均１時間）

【職務内容】　HBV、HDV、HAV、HEV の研究を含む、in vitro および in vivo の研究実験の設計、実施、および実験データの分析と研究論文の執筆　他
＜変更の範囲＞国立健康危機管理研究機構における研究等業務

【選考基準】　①博士号取得者もしくは同等とみなされる程度の専門的な知識経験を有する者
②動物実験に関する十分な経験と技能を有する方（マウス・ラット等の取り扱い、投与・採材、倫理規範の理解と遵守を含む）
③in vitro 実験を自立して遂行できる方（細胞培養、ウイルス学的アッセイ、分子生物学的手法（PCR、クローニング、トランスフェクション等））
④実験データの解析能力を有する方（統計解析、グラフ作成、再現性評価、結果の科学的解釈）
⑤研究報告書・実験記録・成果要旨を正確かつ論理的に作成できる文章力を有する方
⑥研究計画に基づき、実験を安全かつ効率的に進めるための基礎知識を有する方（バイオセーフティ、試薬管理、機器操作）

※なお、次のいずれかに該当する者は、応募できませんのでご了承ください。

①拘禁刑以上の刑に処せられ、その執行を終わるまで又は執行を受けることがなくなるまでの者

②当機構にて懲戒解雇の処分を受け、当該処分の日から２年を経過しない者

③日本国憲法又はその下に成立した政府を暴力で破壊することを主張する政党その他の団体を結成し、又はこれに加入した者

【給　　与】　２，５６０円／時間

【諸手当等】
- 条件や勤務状況等に応じて、通勤手当、超過勤務手当、休日給、賞与の支給有り（賞与は、勤務時間が１週間あたり３０時間以上の者に限る）
- 勤務日数に応じて年次有給休暇を付与（採用から３ヶ月後）
- 労災保険、条件を満たした場合は社会保険（厚生年金、健康保険、雇用保険）に加入

※処遇詳細は、非常勤職員就業規則及び非常勤職員給与規程による

【選考方法】　書類選考及び面接選考

※面接選考は、書類選考後の対象者となります。

※面接試験にかかる交通費等の支給なし

【応募書類】
- 履歴書（６か月以内の写真添付、様式任意、PC から連絡可能なメールアドレスを記載）

※学歴は高等学校卒業以降から記載

- 学位記（写し）又は学位を証明するもの
- 主要研究概要（1,２００字以内）
- 業績目録（Ａ４版縦 横書き、別紙参照）または職務経歴書
- 書類送付先またはメールアドレスに９月７日（月）１２時必着で送付してください。
- 封書またはメールの件名には、下記募集部署を朱書きしてください。

『ウイルス第二部第三室　非常勤職員（研究員）　応募』

- 応募書類は採用審査の用途に限り使用し、返却いたしませんのでご了承ください。
- 応募書類の提出に応じて締め切り前であっても随時、選考を行います。
- 面接はオンラインにて実施することがあります。

【書類送付先】　〒１６２-８６４０

東京都新宿区戸山１－２３－１

国立健康危機管理研究機構

国立感染症研究所総務部人事課人事第一係　担当：山口

メール：koubo-niid@nih.go.jp

ＴＥＬ：０３-５２８５-１１１１（内線）２０２５

（別紙）

業績目録

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

１． 著書

２．学術論文（学会誌発表等）

（１）欧文

（２）邦文

３．学会発表（講演・発表等）

４．外部資金（研究費）獲得状況（研究代表者のみ、直近５年）

（記入上の注意事項（共通））

１．上記項目ごとに、著者名等、著書名等、発行所名（発表雑誌名）の順で記載し、それぞれを改行すると。

２．年代の新しいものから順に記載すること。

３．発行所名、発表雑誌名の次に巻号、ページ数及び発行等の西暦を記入すること。

（例：Journal of Virology, 78:1298-1315, 2002）

４．欧文の発表等は、原文のまま記載し、下段に（ ）書で和訳を記載すること。

５．各題名の書き出しに、発表形態の種別を記載すること。（単独は（単）、筆頭は（筆）、その他（他））

６．著者名等は、本人以外も省略せず全て記載し、さらに本人の名前にアンダーラインを引くこと。

７．長期の無発表期間がある場合は、その理由書を添付すること。

８．査読有りの論文については最低限、記載すること。

（参考例）

１．著書

①機構太郎、感染太郎
（他炎症の組織病態
○○社, PP.67-87, 1989）

２．学術論文
（１）欧文
①Taro Kansen、Jiro Kansen、Saburou Kansen、Tarou Kikou、Jiro Kikou、Saburou Kikou
（筆）An Outbreak of ○○○○○○○ Infection in USA , 2002
（○○○○○○○感染症のアウトブレイク－２００２年アメリカ）
Epidemiology and Infection, 15:286-289, 2002

（２）邦文
①感染太郎、感染二郎、感染三郎、機構太郎、機構二郎、機構三郎
（筆）An Outbreak of ○○○○○○○ Infection in Oosaka, JAPAN, 2004
（○○○○○○○感染症のアウトブレイク－２００４大阪）
Epidemiology and Infection, 16:311-335 2004

３．学会発表
①感染太郎
（単）ラット皮下腫瘍の消長と○○○の相互関係について
第２５回日本病理学会総会, 東京, 1989

４．外部資金（研究費）獲得状況（研究代表者のみ、直近５年）

①厚生労働省、○○（課題名）
期間：令和○○年～令和△△年、金額○○○円／年

②科学研究費補助金、（課題名）□□□□□
期間：令和○○年～令和△△年、金額○○○円／年